

福島県 高等学校 P T A 会報



第六十六回福島県高等学校 P T A 連合会津大会 飛翔け この大地から未来へ

共に歩もう希望を胸に

第六十六回福島県高等学校 P T A 連合会津大会は、平成二十八年六月二日（水）三日（金）の二日間にわたり、東山温泉（御宿東風）を会場として開催されました。大会テーマ「飛翔けこの大地から未来へ」共に歩もう希望を胸に」とのものと、ご来賓七名のご臨席を賜り、県内各地域から三百九十名を超える方が集まり、講演や分科会での発表や討論を通して大変充実した大会となりました。

会津地区の大会実行委員や参加者の皆様のご協力により、盛會のもと全日程を終了することができました。会員の皆様をはじめ関係諸機関のご理解・ご支援・ご協力に対し厚く謝意を表したいと思います。

次にアトラクションとして、会津高校合唱団の生徒による演奏が行われました。総勢八十名の生徒による歌声は、美しく、迫力があり、また楽しさもあり、会場全体を魅了してくれました。講演では、講師に朝倉玲子氏をお迎えし、「イタリヤの大地の恵を日本の人々に！」の演題で考えるメッセージの演題で感性を研ぎ澄ます大切さ、子ども頃から本物に触れる必要性をお話いただきました。

教育懇談会には、各地域から七十名を超える方が参加し、地域を越えて交流を深めました。

第一日目
分科会
五つの分科会に分かれ、各校

次分科会
総務委員会
「本校の P T A 活動の現状と課題」
勿来工業高等学校
P T A 会長 佐藤 一也

第二分科会
進路対策委員会（就職）
「修明高校における進路指導の取り組みについて」
修明高等学校
P T A 会長 坪井 裕治

第三分科会
進路対策委員会（進学）
「生徒一人一人の進路希望実現に向けた本校の取組について」
只見高等学校
進路対策委員長 渡部 憲司

第四分科会
健全育成委員会
「福島高等学校、健全育成委員会活動」
福島高等学校
P T A 会長 松本 栄一

第五分科会
調査広報委員会
「定時制高校における広報活動のありかた」
いわき翠の杜高等学校
P T A 会長 一條 早苗

第六分科会
「PTA 会報『明浄』の歩み」
若松商業高等学校
P T A 会長 吉田 恵三
調査広報委員長 吉田 泰子

第七分科会
「夢を叶えるために」
P T A 会長 櫻井 恵美
「夢を叶えるために」
学風の取り組み」
会津学風高等学校
P T A 会長 松本 栄一

総務委員会
「本校の進路指導上における課題と取り組みについて」
福島県立新地高等学校の現状報告と将来展望」
新地高等学校
P T A 会長 櫻井 恵美
「夢を叶えるために」
学風の取り組み」
会津学風高等学校
P T A 会長 松本 栄一

「本校の進路指導上における課題と取り組みについて」
福島県立新地高等学校の現状報告と将来展望」
新地高等学校
P T A 会長 櫻井 恵美
「夢を叶えるために」
学風の取り組み」
会津学風高等学校
P T A 会長 松本 栄一

「本校の進路指導上における課題と取り組みについて」
福島県立新地高等学校の現状報告と将来展望」
新地高等学校
P T A 会長 櫻井 恵美
「夢を叶えるために」
学風の取り組み」
会津学風高等学校
P T A 会長 松本 栄一

「本校の進路指導上における課題と取り組みについて」
福島県立新地高等学校の現状報告と将来展望」
新地高等学校
P T A 会長 櫻井 恵美
「夢を叶えるために」
学風の取り組み」
会津学風高等学校
P T A 会長 松本 栄一

「本校の進路指導上における課題と取り組みについて」
福島県立新地高等学校の現状報告と将来展望」
新地高等学校
P T A 会長 櫻井 恵美
「夢を叶えるために」
学風の取り組み」
会津学風高等学校
P T A 会長 松本 栄一

「本校の進路指導上における課題と取り組みについて」
福島県立新地高等学校の現状報告と将来展望」
新地高等学校
P T A 会長 櫻井 恵美
「夢を叶えるために」
学風の取り組み」
会津学風高等学校
P T A 会長 松本 栄一

「本校の進路指導上における課題と取り組みについて」
福島県立新地高等学校の現状報告と将来展望」
新地高等学校
P T A 会長 櫻井 恵美
「夢を叶えるために」
学風の取り組み」
会津学風高等学校
P T A 会長 松本 栄一

「本校の進路指導上における課題と取り組みについて」
福島県立新地高等学校の現状報告と将来展望」
新地高等学校
P T A 会長 櫻井 恵美
「夢を叶えるために」
学風の取り組み」
会津学風高等学校
P T A 会長 松本 栄一

発行所
福島県高等学校 P T A 連合会
編集者
福島県高等学校 P T A 連合会
調査広報委員長 岩本光正
調査員 岩本光正

表彰式では、表彰状が橋本博之郡山東高等学校 P T A 会長と林義功磐城桜が丘高等学校 P T A 会長、そして感謝状が高橋祐樹前高 P 連副会長以下二十五名の方々の多年にわたる P T A 活動への功績に対して贈呈されました。また、県高 P 連広報紙コンクールで県代表となった修明高校 P T A・福島南高校 P T A・磐城桜が丘高校 P T A が表彰されました。

表彰式では、表彰状が橋本博之郡山東高等学校 P T A 会長と林義功磐城桜が丘高等学校 P T A 会長、そして感謝状が高橋祐樹前高 P 連副会長以下二十五名の方々の多年にわたる P T A 活動への功績に対して贈呈されました。また、県高 P 連広報紙コンクールで県代表となった修明高校 P T A・福島南高校 P T A・磐城桜が丘高校 P T A が表彰されました。

表彰式では、表彰状が橋本博之郡山東高等学校 P T A 会長と林義功磐城桜が丘高等学校 P T A 会長、そして感謝状が高橋祐樹前高 P 連副会長以下二十五名の方々の多年にわたる P T A 活動への功績に対して贈呈されました。また、県高 P 連広報紙コンクールで県代表となった修明高校 P T A・福島南高校 P T A・磐城桜が丘高校 P T A が表彰されました。

表彰式では、表彰状が橋本博之郡山東高等学校 P T A 会長と林義功磐城桜が丘高等学校 P T A 会長、そして感謝状が高橋祐樹前高 P 連副会長以下二十五名の方々の多年にわたる P T A 活動への功績に対して贈呈されました。また、県高 P 連広報紙コンクールで県代表となった修明高校 P T A・福島南高校 P T A・磐城桜が丘高校 P T A が表彰されました。

表彰式では、表彰状が橋本博之郡山東高等学校 P T A 会長と林義功磐城桜が丘高等学校 P T A 会長、そして感謝状が高橋祐樹前高 P 連副会長以下二十五名の方々の多年にわたる P T A 活動への功績に対して贈呈されました。また、県高 P 連広報紙コンクールで県代表となった修明高校 P T A・福島南高校 P T A・磐城桜が丘高校 P T A が表彰されました。

表彰式では、表彰状が橋本博之郡山東高等学校 P T A 会長と林義功磐城桜が丘高等学校 P T A 会長、そして感謝状が高橋祐樹前高 P 連副会長以下二十五名の方々の多年にわたる P T A 活動への功績に対して贈呈されました。また、県高 P 連広報紙コンクールで県代表となった修明高校 P T A・福島南高校 P T A・磐城桜が丘高校 P T A が表彰されました。

表彰式では、表彰状が橋本博之郡山東高等学校 P T A 会長と林義功磐城桜が丘高等学校 P T A 会長、そして感謝状が高橋祐樹前高 P 連副会長以下二十五名の方々の多年にわたる P T A 活動への功績に対して贈呈されました。また、県高 P 連広報紙コンクールで県代表となった修明高校 P T A・福島南高校 P T A・磐城桜が丘高校 P T A が表彰されました。

表彰式では、表彰状が橋本博之郡山東高等学校 P T A 会長と林義功磐城桜が丘高等学校 P T A 会長、そして感謝状が高橋祐樹前高 P 連副会長以下二十五名の方々の多年にわたる P T A 活動への功績に対して贈呈されました。また、県高 P 連広報紙コンクールで県代表となった修明高校 P T A・福島南高校 P T A・磐城桜が丘高校 P T A が表彰されました。

表彰式では、表彰状が橋本博之郡山東高等学校 P T A 会長と林義功磐城桜が丘高等学校 P T A 会長、そして感謝状が高橋祐樹前高 P 連副会長以下二十五名の方々の多年にわたる P T A 活動への功績に対して贈呈されました。また、県高 P 連広報紙コンクールで県代表となった修明高校 P T A・福島南高校 P T A・磐城桜が丘高校 P T A が表彰されました。

表彰式では、表彰状が橋本博之郡山東高等学校 P T A 会長と林義功磐城桜が丘高等学校 P T A 会長、そして感謝状が高橋祐樹前高 P 連副会長以下二十五名の方々の多年にわたる P T A 活動への功績に対して贈呈されました。また、県高 P 連広報紙コンクールで県代表となった修明高校 P T A・福島南高校 P T A・磐城桜が丘高校 P T A が表彰されました。

表彰式では、表彰状が橋本博之郡山東高等学校 P T A 会長と林義功磐城桜が丘高等学校 P T A 会長、そして感謝状が高橋祐樹前高 P 連副会長以下二十五名の方々の多年にわたる P T A 活動への功績に対して贈呈されました。また、県高 P 連広報紙コンクールで県代表となった修明高校 P T A・福島南高校 P T A・磐城桜が丘高校 P T A が表彰されました。

表彰式では、表彰状が橋本博之郡山東高等学校 P T A 会長と林義功磐城桜が丘高等学校 P T A 会長、そして感謝状が高橋祐樹前高 P 連副会長以下二十五名の方々の多年にわたる P T A 活動への功績に対して贈呈されました。また、県高 P 連広報紙コンクールで県代表となった修明高校 P T A・福島南高校 P T A・磐城桜が丘高校 P T A が表彰されました。

表彰式では、表彰状が橋本博之郡山東高等学校 P T A 会長と林義功磐城桜が丘高等学校 P T A 会長、そして感謝状が高橋祐樹前高 P 連副会長以下二十五名の方々の多年にわたる P T A 活動への功績に対して贈呈されました。また、県高 P 連広報紙コンクールで県代表となった修明高校 P T A・福島南高校 P T A・磐城桜が丘高校 P T A が表彰されました。

表彰式では、表彰状が橋本博之郡山東高等学校 P T A 会長と林義功磐城桜が丘高等学校 P T A 会長、そして感謝状が高橋祐樹前高 P 連副会長以下二十五名の方々の多年にわたる P T A 活動への功績に対して贈呈されました。また、県高 P 連広報紙コンクールで県代表となった修明高校 P T A・福島南高校 P T A・磐城桜が丘高校 P T A が表彰されました。



左から：田中清美県高 P 連会長、高橋均会長、夏目陽子会長、矢内夕希副会長、小島綾双葉高校校長

「東日本大震災後の高等学校教育の充実に関して」
東高 P 連は、十月二十八日（金）に田中清美県会長始め各地区会会長が参加して、「東日本大震災後の高等学校教育の充実のために」について、県教育長に対する要望活動を行いました。田中会長から鈴木淳一県教育長に直接要請書を出し、趣旨を説明し今後の教育活動への支援を要望しました。

「東日本大震災後の高等学校教育の充実に関して」
東高 P 連は、十月二十八日（金）に田中清美県会長始め各地区会会長が参加して、「東日本大震災後の高等学校教育の充実のために」について、県教育長に対する要望活動を行いました。田中会長から鈴木淳一県教育長に直接要請書を出し、趣旨を説明し今後の教育活動への支援を要望しました。

「東日本大震災後の高等学校教育の充実に関して」
東高 P 連は、十月二十八日（金）に田中清美県会長始め各地区会会長が参加して、「東日本大震災後の高等学校教育の充実のために」について、県教育長に対する要望活動を行いました。田中会長から鈴木淳一県教育長に直接要請書を出し、趣旨を説明し今後の教育活動への支援を要望しました。

「東日本大震災後の高等学校教育の充実に関して」
東高 P 連は、十月二十八日（金）に田中清美県会長始め各地区会会長が参加して、「東日本大震災後の高等学校教育の充実のために」について、県教育長に対する要望活動を行いました。田中会長から鈴木淳一県教育長に直接要請書を出し、趣旨を説明し今後の教育活動への支援を要望しました。

「東日本大震災後の高等学校教育の充実に関して」
東高 P 連は、十月二十八日（金）に田中清美県会長始め各地区会会長が参加して、「東日本大震災後の高等学校教育の充実のために」について、県教育長に対する要望活動を行いました。田中会長から鈴木淳一県教育長に直接要請書を出し、趣旨を説明し今後の教育活動への支援を要望しました。

「東日本大震災後の高等学校教育の充実に関して」
東高 P 連は、十月二十八日（金）に田中清美県会長始め各地区会会長が参加して、「東日本大震災後の高等学校教育の充実のために」について、県教育長に対する要望活動を行いました。田中会長から鈴木淳一県教育長に直接要請書を出し、趣旨を説明し今後の教育活動への支援を要望しました。

「東日本大震災後の高等学校教育の充実に関して」
東高 P 連は、十月二十八日（金）に田中清美県会長始め各地区会会長が参加して、「東日本大震災後の高等学校教育の充実のために」について、県教育長に対する要望活動を行いました。田中会長から鈴木淳一県教育長に直接要請書を出し、趣旨を説明し今後の教育活動への支援を要望しました。

「東日本大震災後の高等学校教育の充実に関して」
東高 P 連は、十月二十八日（金）に田中清美県会長始め各地区会会長が参加して、「東日本大震災後の高等学校教育の充実のために」について、県教育長に対する要望活動を行いました。田中会長から鈴木淳一県教育長に直接要請書を出し、趣旨を説明し今後の教育活動への支援を要望しました。

「東日本大震災後の高等学校教育の充実に関して」
東高 P 連は、十月二十八日（金）に田中清美県会長始め各地区会会長が参加して、「東日本大震災後の高等学校教育の充実のために」について、県教育長に対する要望活動を行いました。田中会長から鈴木淳一県教育長に直接要請書を出し、趣旨を説明し今後の教育活動への支援を要望しました。

「東日本大震災後の高等学校教育の充実に関して」
東高 P 連は、十月二十八日（金）に田中清美県会長始め各地区会会長が参加して、「東日本大震災後の高等学校教育の充実のために」について、県教育長に対する要望活動を行いました。田中会長から鈴木淳一県教育長に直接要請書を出し、趣旨を説明し今後の教育活動への支援を要望しました。

「東日本大震災後の高等学校教育の充実に関して」
東高 P 連は、十月二十八日（金）に田中清美県会長始め各地区会会長が参加して、「東日本大震災後の高等学校教育の充実のために」について、県教育長に対する要望活動を行いました。田中会長から鈴木淳一県教育長に直接要請書を出し、趣旨を説明し今後の教育活動への支援を要望しました。

「東日本大震災後の高等学校教育の充実に関して」
東高 P 連は、十月二十八日（金）に田中清美県会長始め各地区会会長が参加して、「東日本大震災後の高等学校教育の充実のために」について、県教育長に対する要望活動を行いました。田中会長から鈴木淳一県教育長に直接要請書を出し、趣旨を説明し今後の教育活動への支援を要望しました。

「東日本大震災後の高等学校教育の充実に関して」
東高 P 連は、十月二十八日（金）に田中清美県会長始め各地区会会長が参加して、「東日本大震災後の高等学校教育の充実のために」について、県教育長に対する要望活動を行いました。田中会長から鈴木淳一県教育長に直接要請書を出し、趣旨を説明し今後の教育活動への支援を要望しました。

「東日本大震災後の高等学校教育の充実に関して」
東高 P 連は、十月二十八日（金）に田中清美県会長始め各地区会会長が参加して、「東日本大震災後の高等学校教育の充実のために」について、県教育長に対する要望活動を行いました。田中会長から鈴木淳一県教育長に直接要請書を出し、趣旨を説明し今後の教育活動への支援を要望しました。

「東日本大震災後の高等学校教育の充実に関して」
東高 P 連は、十月二十八日（金）に田中清美県会長始め各地区会会長が参加して、「東日本大震災後の高等学校教育の充実のために」について、県教育長に対する要望活動を行いました。田中会長から鈴木淳一県教育長に直接要請書を出し、趣旨を説明し今後の教育活動への支援を要望しました。

「東日本大震災後の高等学校教育の充実に関して」
東高 P 連は、十月二十八日（金）に田中清美県会長始め各地区会会長が参加して、「東日本大震災後の高等学校教育の充実のために」について、県教育長に対する要望活動を行いました。田中会長から鈴木淳一県教育長に直接要請書を出し、趣旨を説明し今後の教育活動への支援を要望しました。

「東日本大震災後の高等学校教育の充実に関して」
東高 P 連は、十月二十八日（金）に田中清美県会長始め各地区会会長が参加して、「東日本大震災後の高等学校教育の充実のために」について、県教育長に対する要望活動を行いました。田中会長から鈴木淳一県教育長に直接要請書を出し、趣旨を説明し今後の教育活動への支援を要望しました。

「東日本大震災後の高等学校教育の充実に関して」
東高 P 連は、十月二十八日（金）に田中清美県会長始め各地区会会長が参加して、「東日本大震災後の高等学校教育の充実のために」について、県教育長に対する要望活動を行いました。田中会長から鈴木淳一県教育長に直接要請書を出し、趣旨を説明し今後の教育活動への支援を要望しました。

平成28年度

全国高P連大会・東北高P連大会報告

全国大会報告

会長 田中清美

第六十六回全国高等学校P T A連合大会が、八月二十五日(木)、二十六日(金)の二日間、にわたり千葉市幕張メッセを会場として開催されました。「再発見・愛」をテーマに、愛の絆をテーマとした大会の下、全国各地から会員一万人が集結し、各会場では千葉県高等学校P T Aの方々による心のこもった温かい運営が行われました。残暑が残る中での開会式には、馳浩文部科学大臣、森田健作千葉県知事があいさつに駆けつけ、真摯な議論の中からP T A活動の発展を促す言葉をいただきました。

その後、千葉敬愛短期大学学長・明石要一氏による「高校生の自立を支援するP T A活動の在り方」と題した基調講演があり、会場を盛り上げたテンポの良い講演に参加者が引き込まれていました。

特別分科会では、リクルート進学総研所長・小林浩氏から、「第七回高校生と保護者の進路に関する意識調査」に関する報告があり、その後のパネルディスカッションでは会場から多くの質問や意見が出されるなど活発な意見交換が行われ、各地域での今後の活動の充実に向け期待が持たれる内容となりました。

東北地区高P連仙台大会
「復興から創生へ集え！
伊達の地に」
子どもたちの夢を
応援するP T A活動

第六十五回東北地区高等学校P T A連合大会は、平成

二十八年七月七日(木)・八日(金)の両日にわたって、仙台サンプラザにおいて盛大に開催されました。

第一日目夕刻からのレセプション(江陽ランドホテル)に続く二日目は、九時三十分から宮城農業高校生徒による復興太鼓によって幕を開け、主催者あいさつ、来賓祝辞に続いてP T A活動功労者の表彰が行われました。

基調講演では、宮城教育大学の田端健人教授が「地方創生の主役となる子どもを育てるために」と題して東北日本大震災の学校災害を教訓とした多くの事例を振り返るとともに、地方創生に向けてすべての世代が活躍するコミュニティづくりに関する提言を行うなど意義深い講演となりました。

研究協議では、六名の各県代表による研究発表をもとにシンポジウムが行われ、活発な意見交換が行われました。本県からは、福島明成高等学校の二階堂美由紀P T A会長が「子ども達と共に楽しむ学校行事」笑顔を文化祭、そして創立記念行事へ」と題して、学校、保護者、

地域が共に学校行事を通して共通理解を深め、創立記念行事に取り組み活動の実践例を紹介・報告しました。発表の中で、二階堂会長は、「創立から現在まで二十二年という歴史の中で七十代以上の方々はまだ農業に従事しているということが、自分や自分のまわりの小さな世界の中で悩んだり、将来への漠然とした不安を持ちたりしてしまいがちな青年時代、高校生活において大きな励みになり、P T Aとして生徒たちに関われる行事を彼らと共に楽しみ祝うことが、生徒の心の豊かさや安定に結びつき健全な育成への手助けになると信じ今後活動していきたいと思う。」と力強く述べました。

また、印象に残ったのは、平成二十九年年度に福島、宮城、山形三県において開催される「はばたけ未来へ」東北総体二〇一七を宮城県内の高校生アスリートの皆さんが元気に紹介してくれました。

そして、仙台南高等学校合唱部の透き通るような声が響き渡る中、東北各県の千四百名を超える多くの会員の胸に深く残る素晴らしい大会が成功裡に終了し、次年度開催地である岩手県の渡辺正和会長にバトンが手渡されました。

平成28年度 県高P連専門委員会報告

総務委員会

委員長 田中 清美 (橋岡高等学校)

平成二十八年度第一回総務委員会を八月二日に福島県青少年会館で開催し、次の議案について協議しました。

一 東日本大震災への対応について

東日本大震災とそれに伴う福島第一原発事故により、本県を取り巻く状況は一変し、事故後丸五年経過した現在でも、高校生学習環境や日常生活は事故以前の状況までには至っていません。新たな統合高校の開校に向けた支援の充実、ふたば未来

進路対策委員会

委員長 猪狩 浩孝 (相馬高等学校)

今年度の県高P連進路対策委員会の活動報告を行います。六月の県総会にて二十八年度の活動報告を受け、二十八年度の活動方針が、

①新規卒業生の雇用促進対策
②高校生の進路についての調査
③進路指導と家庭教育の抱える諸問題の調査 この三項目に決まり、これを軸として、八月に第一回進路対策委員会を開催しました。席上、委員の方々からそれぞれの学校の活動状況を報告していただき、話し合いを持ちました。各校とも、進路講演会の開催や、大学・企業訪問などを行っており、保護者も高校生の進路対策について研究調査を深めています。

今後は、年明け一月に第二回進路対策委員会を開催し、進路就職に関するリーフレットを作成し、保護者の進路に対する意識を高めたいと思っています。

また、東北地区高P連の進路対策委員会の活動として、六月に仙台市で第一回委員会、十月に福島市において、リクルートマーケティング進路サポート部の方による講演会を含めた、第二回委員会を開催しました。十二月には第三回委員会を開催する予定です。

また、東北地区進路対策委員会としても、リーフレットを作成し配布する予定になっております。

最後に、高校生の希望進路実現の為に、学力向上はもちろんですが、思考力や判断力、表現力、情報収集力が必要だと思っております。

これらの力を養うことができれば、親のサポートが重要だと考えています。

健全育成委員会

委員長 佐藤 也 (勿来工業高等学校)

健全育成委員会の東北高P連における活動は、六月に仙台市で第一回委員会が開かれ、平成二十八年度活動方針等について協議しました。九月に山形市において第二回委員会が開かれ、各県の健全育成委員会の取組状況について意見交換をいたしました。

県高P連における活動は、八月に第一回委員会を開催し、本年度の活動計画等について各地区的委員の皆様と協議しました。また、全国高P連や東北地区高P連と連携した活動として「登校

時一声運動マナーアップ運動」を各単位P T Aの皆様方のご協力のもと、実施いたしました。この活動は、各地区において定着していると思われ、数年間にわたる活動の成果が認められると確信いたしました。なお、本年度も活動報告書を作りまとめ、後日リーフレットを作成する予定です。

本県の子供たちを取り巻く環境は、震災から五年あまりを経てもまだまだ厳しい状況にあります。未来ある子供たちの「大切な生命」を守るといふ観点からも保護者と学校が連携し、さらには地域の皆さまのご協力を守りながら、子供たちの成長を見守りたいと考えております。

最後に、今年度もご尽力いただきました。各単位P T Aならびに県高P連の皆さま方に感謝申し上げます。

調査広報委員会
委員長 岩本 光正 (葵高等学校)

今年度一回目の調査広報委員会は、平成二十八八月二日に福島県青少年会館にて、総務委



全国高等学校情報処理選手権に参加して

福島商業高等学校
三年 新関 綾太

私は、第八回全国高等学校情報処理選手権に情報処理部の仲間とともに出場しました。今回の大会は部員全員で参加することのできる最後の大会だったため、三年間部活動で仲間たちとともに勉強したことをフルに活

情処理選手権

葵高等学校のP T A活動の現状

P T A会長 岩本 光正

本校は、平成十四年に男女共学化されて、葵高等学校と改名しました。葵高校発足時には普通科一学年三百二十名定員でしたが、現在は一学年二百四十名定員です。そのうち女子が約六割を占めており、生徒のほぼ全員が上級学校進学を目指しています。

P T A活動は、保護者と学校が相互に協力し合いながら、心身ともに健全な子どもたちの成長を手助けすることであり、そのためにそれぞれの委員会の活動を少しでも実りあるものへと改善する必要があります。その活動が、学校と保護者との連携・保護者同士の交流、そして最も大切な保護者と子どもとのつながりを再確認し、新たなものを再発見させてくれます。

しかしながら、悔いの残ることのないよう全力で大会に臨みました。結果、全国で団体二位という順位に入賞することができました。

苦しい時も何度もありました。仲間同士での協力や信頼があったからこそ今回のような結果を出すことができたのだと思います。また、三年間指導してくださった顧問の先生、陰ながら支えてくれた家族への感謝の気持ちをお忘れずにしたいと思います。

これからは、部活動で学んだ知識を生かし、情報社会のため貢献していけるよう努力したいと思っております。

国民体育大会を終えて
福島工業高等学校
三年 穴戸 大輔

私は、第七十一回国民体育大会ウエイトリフティング競技少年男子七十七kgで優勝することができました。

今日大会は腰に痛みがある状態のまま大会に臨んだため、大会期間中毎日トレーナーの方にマッサージして頂きました。そのおかげで腰の痛みもだいぶ和らぎ、万全ではありませんが、いい状態で試合に臨むことができました。この度、優勝という最高の結果を残すことができました。



三年間を通して得たもの

福島西高等学校
三年 梅津 沙妃

八月に広島で行われたインターハイで、ベスト8に入ることができました。しかし、自分たちの掲げていた目標はベスト4だったため、悔しさも残る大会になりました。

私は高校で、こんなに素晴らしい経験ができると思ってもいませんでした。三年間のバスケットボール生活は、つらいことや苦しいことがたくさんありましたが、しかし、試合に勝った



ダンスドリル全国大会を振り返って
 郡山商業高等学校
 二年 吉田 葉

全国大会までの道のりは、決して平坦なものではありませんでした。なかなか皆の気持ちが一つにならず、学年の壁を越えて意見がぶつかり合うことが多くあり、何度も涙を流しました。また、三年生ではなく、私達二年生がチームをまとめる役割を担っていたため、見えないプレッシャーに負けそうにもなりませんでした。しかし、そんな中でも共に頑張っている仲間達が支えてくれました。日々、チームの成長を実感することがやりがいにつながりました。



馬と共に。
 岩瀬農業高等学校
 三年 高橋 宇宙

馬術競技はその名の通り「馬」という生き物をパートナーとして成立するスポーツです。自馬を持つ私たちに休みのない毎日は当然であり、正直、毎日が必死です。そんな私達は「全国大会優勝。高校馬術団体戦日本一」という目標に対する情熱の他には何もない、というところからの始まりでした。しかし、私たちの想いを「かたち」にしよと、本当に多くの方々から様々な愛情を頂きました。だからこそチームのみんながひとつひとつを乗り越えることが出来たのです。高校馬術団体戦日本一をつかみ取り、そして、卒業を控えた今、どんな時も投げ出さず、どんな事からも逃げず、岩瀬馬術部を続けたことが、いかに大切な日々であったのか改めて気付かされていきます。そして何よりも、「馬たちに感謝」です。ありがとうございます。

国民体育大会を終え 更に前へ
 修明高等学校
 三年 菊池 拓哉

私達は二十一年ぶりに出場を果たした第七十一回国民体育大会ホッケー競技を五位で終えました。



そして迎えた大会では、念願のブロンズ部門優勝を果たしました。この目標を成し遂げる事ができたのは、励まし合い高めあった仲間達、厳しくも愛のある指導者をして下さった先生、見守ってくれた両親のおかげです。これからも感謝の気持ちを忘れず、次の夏の大会はさらに強いチームを目指して頑張ります。

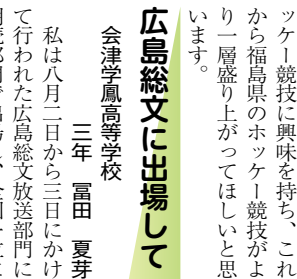
馬と共に。
 岩瀬農業高等学校
 三年 高橋 宇宙

馬術競技はその名の通り「馬」という生き物をパートナーとして成立するスポーツです。自馬を持つ私たちに休みのない毎日は当然であり、正直、毎日が必死です。そんな私達は「全国大会優勝。高校馬術団体戦日本一」という目標に対する情熱の他には何もない、というところからの始まりでした。しかし、私たちの想いを「かたち」にしよと、本当に多くの方々から様々な愛情を頂きました。だからこそチームのみんながひとつひとつを乗り越えることが出来たのです。高校馬術団体戦日本一をつかみ取り、そして、卒業を控えた今、どんな時も投げ出さず、どんな事からも逃げず、岩瀬馬術部を続けたことが、いかに大切な日々であったのか改めて気付かされていきます。そして何よりも、「馬たちに感謝」です。ありがとうございます。

出場にあたってご支援くださった皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。大会を通して一人ひとりが心身ともに成長し最後までベストを尽くすことができました。国体出場において印象に残っていることは、国体出場を決めた東北総合体育会代表決定戦です。前半戦を終えて一対三と、相手の宮城県代表に二点のリードを許す厳しい試合でした。しかし、猛暑の中の練習をこなしてきた私達には試合終盤でも走り勝負の自信がありました。また、メンタルトレーニングを取り入れることにより、どんな状況でも対応する精神力を身につけてきました。これまでの練習を自信にし、自分たちの持ち味である粘り強さで同点に追いつき、SO戦の末、勝利することができました。

国民体育大会を終え 更に前へ
 修明高等学校
 三年 菊池 拓哉

私達は二十一年ぶりに出場を果たした第七十一回国民体育大会ホッケー競技を五位で終えました。



そして迎えた大会では、念願のブロンズ部門優勝を果たしました。この目標を成し遂げる事ができたのは、励まし合い高めあった仲間達、厳しくも愛のある指導者をして下さった先生、見守ってくれた両親のおかげです。これからも感謝の気持ちを忘れず、次の夏の大会はさらに強いチームを目指して頑張ります。

馬と共に。
 岩瀬農業高等学校
 三年 高橋 宇宙

馬術競技はその名の通り「馬」という生き物をパートナーとして成立するスポーツです。自馬を持つ私たちに休みのない毎日は当然であり、正直、毎日が必死です。そんな私達は「全国大会優勝。高校馬術団体戦日本一」という目標に対する情熱の他には何もない、というところからの始まりでした。しかし、私たちの想いを「かたち」にしよと、本当に多くの方々から様々な愛情を頂きました。だからこそチームのみんながひとつひとつを乗り越えることが出来たのです。高校馬術団体戦日本一をつかみ取り、そして、卒業を控えた今、どんな時も投げ出さず、どんな事からも逃げず、岩瀬馬術部を続けたことが、いかに大切な日々であったのか改めて気付かされていきます。そして何よりも、「馬たちに感謝」です。ありがとうございます。

出場にあたってご支援くださった皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。大会を通して一人ひとりが心身ともに成長し最後までベストを尽くすことができました。国体出場において印象に残っていることは、国体出場を決めた東北総合体育会代表決定戦です。前半戦を終えて一対三と、相手の宮城県代表に二点のリードを許す厳しい試合でした。しかし、猛暑の中の練習をこなしてきた私達には試合終盤でも走り勝負の自信がありました。また、メンタルトレーニングを取り入れることにより、どんな状況でも対応する精神力を身につけてきました。これまでの練習を自信にし、自分たちの持ち味である粘り強さで同点に追いつき、SO戦の末、勝利することができました。

栄光の記録 高文連専門部全国大会等

- 平成28年度高文連専門部全国大会 (個人)**
- 第40回全国高等学校総合文化祭 広島大会放送部門
富田 夏芽 会津学鳳高等学校 朗読部門 優秀賞
 - 第40回全国高等学校総合文化祭 広島大会小倉百人一首かるた部門
片桐 沙都 安積黎明高等学校 読手コンクールの部 全国優秀賞
西牧真凛、古川唯夏、増子未夕、馬場智大、田村優樹、阿部麻莉奈、宇佐神奏子、菊池信吾 安積黎明高等学校 競技の部 優良賞
 - 第64回全国高等学校家庭クラブ研究発表会
我妻 美紅 湯本高等学校 ホームプロジェクトの部 福島県教育委員会賞
 - 全国高等学校情報処理選手権
南澤 義幸 福島商業高等学校 個人 3位
 - 全国高等学校珠算・電卓競技大会
佐藤 有美 郡山商業高等学校 (電卓の部) 個人総合競技 2等
弟子丸 遥花 郡山商業高等学校 (電卓の部) 伝票算競技 優勝

- 濱津 花恋 郡山商業高等学校 (電卓の部) 伝票算競技 2等
- 全国高等学校珠算・電卓競技大会 全国簿記・電卓競技大会
水野 雄斗 郡山商業高等学校 (電卓の部) 個人総合競技 2等
応用計算競技 優勝
伝票算競技 2等 (電卓の部) 個人総合競技 準優勝
- (団体)
- 全国高等学校ダンスドリル選手権大会2016
郡山商業高等学校 ブロップ部門 優勝
- 全国高等学校ダンスドリル選手権大会ウィンターカップ
郡山商業高等学校 ボン部門 優勝
郡山高等学校 リリカル部門 第3位
ジャズ部門 第3位
鈴木 梨奈 郡山高等学校 学年別ソロの部 第1位
- 第63回NHK杯全国高等学校放送コンテスト
安積黎明高等学校 創作ラジオドラマ部門 優勝

- 第40回全国高等学校総合文化祭 広島大会放送部門
安積黎明高等学校 ビデオメッセージ部門 優秀賞
- 第7回国際ナノ・マイクロアプリケーションコンテスト
郡山北工業高等学校 世界大会 Third Prize (3位)
Special Prize (特別賞)
国内予選 (2位~5位)
- 全国簿記電卓競技大会(電卓部門)
郡山商業高等学校 (全経) 団体競技 準優勝
- 全国高等学校珠算・電卓競技大会
郡山商業高等学校 (全商) 団体総合競技 優勝
- 全国高等学校情報処理選手権
福島商業高等学校 団体2位
- 第83回NHK全国学校音楽コンクール全国大会
安積黎明高等学校 銅賞
- 第69回全日本合唱コンクール
会津高等学校 金賞
郡山高等学校 金賞
安積黎明高等学校 銀賞
- 第64回全日本吹奏楽コンクール
湯本高等学校 銀賞

- 磐城高等学校 銀賞
- 第12回 高校生スピーチコンテスト
齋藤 奏 会津高等学校 審査員特別賞
- 第63回国際理解・協力のための高校生主張コンクール
和田 奈那 安積高等学校 外務大臣賞
- 第67回日本学校農業クラブ全国大会
五十嵐智美 耶麻農業高等学校 農業鑑定競技会 分野 農業 最優秀
佐藤真末子 福島明成高等学校 意見発表 Ⅲ類ヒューマンサービズ 最優秀(文部科学大臣賞)

小説「アピシニアン」。昨年度の県大会では最優秀賞、東北大会では優良賞をいただき、福島を背負うつもりで一言一言に思いをのせて朗読しました。広島総文は三年間の集大成であり、もっとも思い出深い大会となりました。私をこの大きな

舞台まで導いてくださった顧問の先生方には心から感謝いたします。今後も福島県の放送部のさらなる活躍と発展を願い、応援し続けたいと思います。



栄光の記録 国体・高校総体・定時制通信制体育大会

- 第71回国民体育大会成績**
- 水泳競技
佐藤隆之介 会津工業高等学校 A50m自由形 6位
 - 陸上競技
浜尾 京太 平工業高等学校 A400mH 5位
馬場 竜矢 会津農林高等学校 Aやり投 8位
 - ホッケー競技
修明高等学校 5位
 - バスケットボール競技
福島西高等学校 5位
 - レスリング競技
阿久津裕人 田島高等学校 グレコ74kg級 5位
壽松木勇貴 喜多方桐桜高等学校 グレコ120kg級 5位
 - ウエイトリフティング競技
穴戸 大輔 福島工業高等学校 77kg級スナッチ 1位
77kg級 C&J 1位
長谷川 達 勿来工業高等学校

- 105kg超級スナッチ 8位
- 自転車競技
鶴沼 利久 白河実業高等学校 個人ロード・レース 2位
- ソフトボール競技
少年男子 5位
- バドミントン競技
山澤 直貴 富岡高等学校 金子 真大 ふたば未来学園高等学校 久保田友之祐 ふたば未来学園高等学校 少年男子 1位
仁平 菜月 富岡高等学校 吾妻 咲弥 富岡高等学校 高橋明日香 ふたば未来学園高等学校 少年女子 1位
- 冬季大会スキー競技 (平成28年1月~2月開催)
渡部 大輝 猪苗代高等学校 スペシャルジャンプ 5位
コンバインド 5位
高橋 海里 猪苗代高等学校 ジャイアントスラローム 9位
- 冬季大会スケート競技 (平成28年1月~2月開催)
古川徹、増子建紀、鈴木瑞騎

- 郡山商業高等学校 鈴木 大地 安積高等学校 少年男子スピード 2000mR 8位
木田 綾音 郡山商業高等学校 少年女子スピード 500m 8位
- 平成28年度全国高等学校総合体育大会
- 陸上競技
布川 輝 小高工業高等学校 男子砲丸投 8位
- バスケットボール
福島南高等学校 男子 3位
福島西高等学校 女子 5位
- バドミントン
富岡・ふたば未来学園高等学校 女子団体 1位
男子団体 2位
山澤 直貴 富岡・ふたば未来学園高等学校 男子シングルス 1位
仁平 菜月 富岡・ふたば未来学園高等学校

- 女子シングルス 1位
高橋明日香
富岡・ふたば未来学園高等学校 女子シングルス 2位
金子 真大 富岡・ふたば未来学園高等学校 男子シングルス 3位
山澤 直貴・本田 大樹 富岡・ふたば未来学園高等学校 男子ダブルス 3位
金子 真大・久保田友之祐 富岡・ふたば未来学園高等学校 男子ダブルス 3位
- 剣道
白河高等学校 女子団体 5位
- 柔道
島貫 蓮 田村高等学校 男子66kg級 5位
遠藤 公太 若松商業高等学校 男子81kg級 5位
- ボート
石塚慎之助 田村高等学校 男子シングルスカル 5位

- 自転車競技
鶴沼 利久 白河実業高等学校 ポイント・レース 4位
石井 洋輝 白河実業高等学校 1kmタイム・トライアル 6位
白河実業高等学校 4kmチーム・パーシュート 6位
- ウエイトリフティング
穴戸 大輔 福島工業高等学校 77kg級スナッチ 1位
77kg級クリーン&ジャーク 1位
77kg級トータル 1位
坪井 大樹 田村高等学校 62kg級クリーン&ジャーク 3位
62kg級トータル 8位
- フェンシング
高橋 七美 川俣高等学校 女子サーブル 3位
- 第50回全日本高等学校馬術競技大会
岩瀬農業高等学校 馬術団体 1位

感謝

富岡高等学校
三年 吾妻 咲弥

八月に岡山県で行われたインターハイで団体戦優勝、十月に岩手県で行われた国体少年女子で優勝することができました。インターハイでは富岡という看板を背負って戦った最後の試合でした。苦しい試合が続きましたが、富岡という名前を全国に広めたい、そして優勝して富岡町のみさんに恩返ししたいと思い全力で戦い、最後に優勝できて良かったです。

全国家庭高等学校クラブ研究発表大会に参加して

湯本高等学校
三年 我妻 美紅



平成二十八年八月に福島県郡山市で開催されました、第六十四回全国家庭高等学校クラブ連盟研究発表大会、ホームプロジェクトの部に、東北ブロック代表として、Family Ship を合言葉として、本校家庭クラブ員九名と共に、本校家庭クラブ員九名と共に

相双地区5校「休校」と「サテライト」への思い

浪江高等学校
PTA会長 深谷 浩光

今、双葉郡は復興に向けて、国、県、各町村、地域の方々が一歩一歩前に向かって進んでいます。浪江町も、役場の前に仮設商業施設「まち・なみ・まるしえ」がオープンするなど、前進する確かな足音が聞こえてきています。浪江高等学校の在校生、卒業生、同窓生にはどんなにか嬉しいことかと思えます。

を貫き、日々精進していきたいと思えます。そして福島のみなさまに夢や感動を届けられるよう頑張りたいと思えます。

に参加させて頂きました。大変緊張しましたが、本研究を実施するにあたり、専門的なアドバイスを頂いた、先生方（かしま病院 今泉女子専門学校）、顧問の先生、本校家庭クラブ員の友人、そして、大切な家族に向けて、感謝の気持ちを込め、発表させて頂きました。

援に深く感謝申し上げます。大変に、浪江高校が再開する際には、子ども達の安全安心を第一に考える地域であり、学校であることをお願いしております。

長い歴史が続く事は親としても喜びでした。この度の休校措置には心から残念の言葉しかありません。避難後の子供達の母校となる校舎は休校後に撤去されてしまいます。子供達には、校舎が無くて津島校で学んだ卒業生として堂々と胸を張って社会の役に立つ存在であって欲しいと心から願っています。

グリーンカーテンの設置、大熊町のふるさとまつりへの出店や国道六号線の清掃ボランティア活動など、相双地区の方々とつながりも大切に、交流も積極的に進めてきました。その際にも、今年度末での休校を惜しむ声もたくさん聞かれました。

サテライト校という通常の学校生活とは違う環境の中でも生徒たちは仲間と一緒に学べることの喜びをかみしめ、サテライト校だったからこそできた経験もあり、充実した学校生活を送ってくれたと思っています。

最後にありますが、サテライト校の生徒たちには寄り添い支えてくださった校長先生はじめ諸先生方に感謝いたします。また、多くの方々にご支援、ご協力を賜り、学校生活並びにPTA活動ができたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

代表として世界で活躍する生徒や卒業生も多数輩出してきました。

浪江高等学校津島校
PTA会長 柴田 明範

忘れて事の出来ない。あの平成二十三年三月十一日の東日本大震災に襲われてしまった。あの日でしたが津島校は、幸い大きな被害もなく一安心をしていた矢先の福島第一原発事故が起きてしまいました。原発から三十キロの位置にあった津島校は、避難所となり大勢の浪江町民が身を寄せる所となりました。教室も体育館も津島地区の学校は全てが避難所となり、沢山の人が溢れたのでした。あの時には、直ぐに自宅へ戻れるはずでしたが、残念ながら原発の暴走はコン

トロールする事が困難となり、恐れられた最悪の事態となり放射能が拡散する事故となりました。浪江町は、残念ながらもどこからも避難指示等の連絡も無いまま、三月十五日まで高線量の津島地区に当時の在校生やこれから津島校に入学する生徒やその後輩達に被ばくをさせてしまいました。

全国に避難した生徒達や春に入學するはずでした新入生は辛い日々でした。津島校は、PTAとして再開しますと言う話ではなかったかと思えます。しかし、子どもたちは様々な場面で「この少人数だったからこそ勉強できたことがたくさんある。浪江高校で本当に良かった。」というメッセージを残しています。

音楽部・進路研究部と本宮高校との合同仮設住宅訪問、報道でもたくさん取り上げられた公開文化祭「青浪祭」など、この厳しい学校生活の中で、この様に喜びを持って日々を送ることができたのは、細やかにそして温かく導いてくださった先生方、本宮高校の先生方のおかげです。たと、保護者一同心から感謝しております。

休校を迎えるにあたり、各学

校関係者の方々、本宮市・浪江町両地域の皆様、同窓会の皆様、これまでのPTAの方々のご支

援に深く感謝申し上げます。

双葉翔陽高等学校
PTA会長 高橋 均

今年度末で双葉翔陽高校は休校になります。現在サテライト校で学んでいる生徒は十二名、休校前最後の生徒たちです。そのサテライト校で学ぶ生徒たちが双葉翔陽高校を選んで良かったと思ってもらえる学校生活を送らせよう！を役員合言葉にPTA活動を行ってまいりました。

四月にPTA総会を開催し今年度の活動をスタートさせ、衣替えや長期休業明けの登校日にあわせ行う登校指導や、生徒たちの進路実現のために保護者も参加しての面接指導など、少人数の役員ではあります協力して行ってきました。また、PTA広報紙の作成も役員が放課後の学校に集まり、生徒たちの学校生活やPTA活動などをわかりやすく紙面で伝えようと活動してきました。

生徒たちは、休校前最後の卒業生として様々な形で双葉翔陽高校をアピールしてくれました。部活動においては、人数が少なく活動自体が大変な状況にありながらも、ソフトニス部は同じサテライト校の双葉高校とチームを組み、地区大会で上位入賞を果たし県大会に出場しました。陸上競技部は部員が一人という中でもコツコツと練習を積み重ね、県大会出場などの活躍をみせてくれました。PTAとしても頑張っている生徒たちには色々な経験をさせてあげたいと研修旅行を支援し、六月には屋久島研修旅行を実施しました。その東京研修の際に、全国高等学校PTA連合会の事務局を生徒たちは訪問し、これまでの支援に対する御礼と休校の報告をさせていたいただきました。また、近隣にある橋本町サポーターセンターへの

代表として世界で活躍する生徒や卒業生も多数輩出してきました。

その歴史ある富高に未曾有の地震と津波、原発事故という惨禍が悲劇をもたらしました。生徒たちはバラバラになり、学校に通うことが出来なくなると富岡町の校舎を離れることを余儀なくされました。その後、県内外五つの高校の協力のもとに五カ所にサテライト校を設置し、学習を継続でき、今年で六年目を迎えました。

平成二十七年からは生徒募集を停止し、現在は三年生六十二名が三カ所のサテライト校（原立福島北高等学校、県立猪苗代高等学校、静岡県立三島長陵高等学校）で学習活動を行っております。この三年生たちは自分たちが休校前最後の生徒になることを知りながらも富高で学びたいと夢を持って門をたたいた生徒たちです。

母校が休校になる寂しさ、後輩がいない辛さを胸に、「富高魂」をもって残り少ない学校生活を一日一日大切に過ごしておられます。そして、バラバラになつてしまった生徒たちは「富高の集い」で年二回一緒にいることで、富高の伝統と生徒同士の絆を深めております。また、部活動では先生方の熱心なご指導と卒業生の温かいご支援をいただき、サテライト校になってからも各競技で全国レベルの成績と活躍を継続することができ、この活躍は学校関係者のみならず富岡町民の方々にも勇気と希望を与えていることでしょう。

富岡高等学校
PTA会長 設楽 力

県立富岡高等学校（以下「富高」）は昭和二十五年に県立浪江高等学校富岡分校として開校され、平成十八年に普通科から連携型中高一貫の「国際・スポーツ科」に改編されました。公立校としては特色のある取り組みで、全国的に注目を集め、真の国際人として社会をリードする人材の育成を目標とした双葉地区教育構想のもと、国際・スポーツ科に設置された国際・スポーツコース、福祉健康コース、国際コミュニケーションコースでの学習を通し、生徒の努力は着実に実を結び、部活動においても多方面での活躍が見られ、全国大会出場はもとより、日本

代表として世界で活躍する生徒や卒業生も多数輩出してきました。

その歴史ある富高に未曾有の地震と津波、原発事故という惨禍が悲劇をもたらしました。生徒たちはバラバラになり、学校に通うことが出来なくなると富岡町の校舎を離れることを余儀なくされました。その後、県内外五つの高校の協力のもとに五カ所にサテライト校を設置し、学習を継続でき、今年で六年目を迎えました。

平成二十七年からは生徒募集を停止し、現在は三年生六十二名が三カ所のサテライト校（原立福島北高等学校、県立猪苗代高等学校、静岡県立三島長陵高等学校）で学習活動を行っております。この三年生たちは自分たちが休校前最後の生徒になることを知りながらも富高で学びたいと夢を持って門をたたいた生徒たちです。

富岡高等学校
PTA会長 夏目 陽子

今、双高九十三年の歩みが止まるうとしています。来年三月末でこの学校は休校になる。子ども達はどこへ帰ればいいのか？ 思いおこせば、双葉高校（以下双高）とのつきあいは長い。仕事のために生徒間もなく双高裏の親戚宅に長女長男を預けた頃から身近な存在だった。放課後、吹奏楽部の練習音を聴き、野球部、テニス部、陸上競技部の練習を観戦し、校門外に喫煙していた先生方との語り等慣れ親しんだ双高へ進路選択することを子ども達は全く迷いしなかつた。

平成二十三年三月、東日本大震災の発生で長女はその希望とおりにより双高へ通学することが適わなくなつたが、県内四箇所にある双高サテライト校が開校されて、翌年いわき明星大学に集約されたも、双高を卒業したい一心で通い続けた。私も学校生活を今後の情報を得るためにPTA活動に参加してきた。

平成二十六年十月、長男が入学したこの年に次年度の募集が停止された。長男には二年間後輩がいない。部活動は柔道部ボランティア部を除き、軟式テニス部、硬式野球部はすべて合同チームで頑張ってきた。このサテライト校で経験できたことは決して無駄ではなく、将来親子で笑って話せることを願っています。

終わりに、サテライト校を受け入れくださった各高校（福島南、あさか開成、葵、磐城、関係の皆様、いわき明星大学の皆様、県PTA関係の皆様、そして最後まで尽力いただいた先生方、PTA各位、同窓会の皆様）に紙面をお借りして御礼申し上げます。どうもありがとうございました。

